

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2 【かかわる】	⑨【仲間や地域の人々とのつながり】 幼児や高齢の人々・障がいのある人々等と一緒に生活している地域社会において、互いに支え合う仲間の大切さや地域の方々のありがたさを実感する。	生活科 総合的な学習

【題材】

生活科「いろいろなひとと なかよしになろう」

総合的な学習の時間（人の絆の大切さ・地域づくり）「復興支援 in 野田」

【対象】

全学年

【実践の概要・詳細】

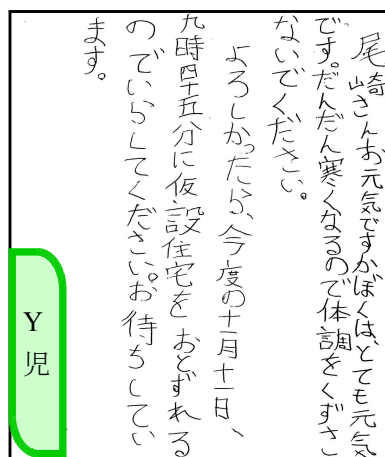
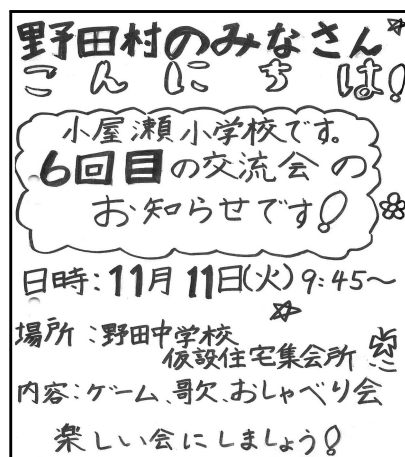
本校では平成 24 年度から被災地（野田村）訪問を行っている。仮設住宅に住む方々との交流を通して思いやりの気持ちをもって共に支え合いながら生きていこうとする態度を育ててきた。その活動の中で子どもたちは、被災された方々の立場に立って、自分たちができることは何なのかを考え、それを課題として活動を進めた。自分たちが訪問し、野田の方々と交流することで、人とのかかわる喜び、支え合って生きる方々の生き方にふれることができた。

（１）仮設住宅に住んでいる方との交流（第１回７月、第２回１１月）

仮設住宅に住んでいる方々にたくさん参加してほしいという願いで次の手順で交流会を行った。特に交流会は体と心のふれあいを重視する内容にした。

- ①交流会を知らせるちらし配布…事前に野田村社会福祉協議会に依頼。
- ②前年度交流した方々との手紙の交流…事前に児童から訪問予定であるお知らせの葉書を書き送付。
- ③交流会（民舞披露、ふれあうゲーム、歌など）
- ④石鹸のプレゼント…学校で廃油と化成ソーダを混ぜて環境にやさしい石鹸を作製。

【事前配布した児童手作りのちらし】 【訪問予定を知らせる葉書】→【野田村の方にいただいたお返事】



【交流会の様子】



【廃油で作ったエコ石鹸】



(2) 新巻鮭づくり体験

仮設店舗で営業している魚店と一昨年から交流をしている。鮭の水揚げの減少、ふ化場の整備等が課題である状況を学びながら新巻鮭づくりの体験活動を行った。鮭の卵であるイクラの加工を見せていただき、鮭の命の源に触れることで、海の恵みとくらしのかかわりについても考えることができる体験になった。



新巻鮭づくりの魚店での作業は、塩を塗りこむ作業のみを行った。続きは学校において教師と児童で水洗い、塩抜き、干す作業を協働で体験した後、家庭の協力を得て各家庭ごとに親子で作業し完成させた。新巻鮭を家族で食しながら、被災地に思いをはせることを期待した。

【新巻鮭作り体験】

【イクラの塩漬けを作る様子を見学】

(岩手日報の記事)

【新巻鮭作りアンケート（保護者と児童の感想の一部）】

- ・わたしは、水洗いを妹と弟とでしました。とてもきれいに洗えたのでよかったなあとと思いました。干すのはお父さんがやったけど私がやることは全部できてよかったなあとと思いました。また干すときは全部私がやりたいです。(1年生女兒)
- ・新巻鮭を作ること野田村の人と交流できると思うのでいいと思いました。(2年生男児)
- ・新巻鮭を作ってみて手間はかかったけど美味しくできあがったので良かったです。新巻鮭を通して、小野さんと関わりをもててうれしいです。小野さんとする新巻鮭作りは楽しかったです。(5年生女兒)
- ・新巻鮭はとてもおいしかった。自分たちで作ったので小野さんの大変さがわかった。津波や地震が来たのに小野さんはいつも頑張っているんだと思った。私も夢に向かって頑張りたい。(6年生女兒)
- ・親としても震災前は海岸線の生活など意識していなかった。なかなか内陸では想像できない沿岸部の生活や食生活を支える仕事に触れるのは、復興を応援するという意味でも実感を伴っていいものだと思う。親子共々の会話にもなるし、未来を語り合う材料になってくれる。(1年の母より)
- ・鮭を持ち帰り、家族で塩抜き、水洗い、干す作業を始めてやってみました。「大きいね。」「オスかな？メスかな？」など、大きな魚をよく観察しながら挑戦。子どもにとっても私たちにとっても良い経験になりました。味も格別。冷凍している鮭をどう調理していただくか楽しみです。震災から三年たった野田村で大きく育った鮭。生きたものを美味しくいただけることに感謝の気持ちを忘れず毎日食事をしたいですね。(2年生の母より)
- ・小野さん(魚屋さん)と子どもたちで作った新巻鮭の仕上げを家でするというやり方もいいなと思いました。小野さんからの手紙を読んで子どもたちのことを温かい気持ちで思っている様子が伝わり、本当にありがたいなと思いました。3年目の鮭も一番おいしかった気がします。手がかかっている分、大切に、美味しく頂こうという気持ちになります。(5年生の母より)